

氏名	喜多雅英
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博甲第 4887 号
学位授与の日付	平成26年3月25日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科病態制御科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)

学位論文題目	The Genetic Diversity of <i>Helicobacter pylori</i> Virulence Genes Is Not Associated with Gastric Atrophy Progression (ヘリコバクター・ピロリ菌の病原遺伝子の多様性は 胃粘膜萎縮の進展に関与しない)
--------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

論文審査委員	教授 藤原 俊義 教授 山田 雅夫 教授 草野 展周
--------	----------------------------

#### 学位論文内容の要旨

胃粘膜の萎縮性変化は胃癌の危険因子と考えられているが、*Helicobacter pylori* 感染症が原因と考えられている。本研究では、*H. pylori* における病原遺伝子の多様性が胃粘膜萎縮の進展と関係しているかどうか検討した。対象は背景胃粘膜の萎縮の程度の異なる胃十二指腸潰瘍患者で、その患者検体から *H. pylori* の菌株を培養し病原遺伝子を検討した。検討した病原遺伝子は iceA、babA、vacA、cagA と cagE で、特に cagA 遺伝子は EPIYA motifs についても検討した。結果は PCR による病原遺伝子の解析とシーケンシングによる EPIYA motifs の解析を行ったが、統計的に有意な差は認められなかった。しかし疾患に関与する病原遺伝子の存在や cagA 遺伝子 EPIYA 含有領域の構造の違いは認められ、そこから症状の違いが生まれる可能性が示唆された。

#### 論文審査結果の要旨

本研究では、胃癌の危険因子と考えられている胃粘膜の萎縮性胃炎の進展において、原因とされている *Helicobacter pylori* の病原遺伝子の多様性が関係しているかどうかを検討している。萎縮程度の異なる胃・十二指腸潰瘍患者検体から *H. pylori* の菌株を培養し、iceA、babA、vacA、cagA、cagE の病原遺伝子の多様性を解析したところ、胃粘膜の萎縮性変化の進展とは明らかな関係は認められなかった。胃粘膜萎縮の進展には病原遺伝子の遺伝子多型ではなく、宿主の免疫応答や炎症性メディエーターなどの関与が示唆されたという点から、本研究は価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。